

「人を通して学ぶ」

～学習コミュニティデザイン特論をカリキュラムデザインとして考える～

荻宿 俊文*

カリキュラムデザインのコンセプト

社会情報学研究科ヒューマンイノベーションコース（以下 HI コース）の後期科目に「学習コミュニティデザイン特論」がある。

これは、大学院における等質的な学習実践に疑義を提示するために、異年齢、異分野の人との交流する前提としたカリキュラムデザインした授業である。なぜなら、HI コースは、社会人対応の大学院を標榜し、入学者の8割以上が社会人の大学院であり、「学びを学ぶ大学院」として、学際的な主題に取り組んでいるために、多様な人材が修学しているために、等質的な学習環境よりも修学者の多様性を生かしたカリキュラムデザインが求められているからである。

「学習コミュニティデザイン特論」のカリキュラムデザインのコンセプトは、学習を広義に捉え、「異」とのコミュニティ形成を通した学び、コミュニティへの貢献を通した学びをデザインしていくである。

そのため、知識を獲得していくということだけではなく、自らの学習コミュニティにおける意味生成を目指し、そのプロセスを編集していくことで自らの学習の履歴を可視化していく科目である。

これらのカリキュラムデザインのコンセプトを実現していくための学習環境としては、M1 の院生7名、それに、ゲストとして学部3年生が7名、この2つの学び手に加え、編集デザインという切り口でフィルムアート社の編集者や、(株) CONSENT の web デザイナーが7名参加している。この合わせて21名が、混ざり合って、3つの階層が混ざり合ってグループをつくり、コミュニティを通して、学んだこと、考えたことを共有していくという学習コミュニティを準備し、そこに荻宿研究室から3名のファシリテータとして参加した上に、

* 社会情報学研究科（社会情報学専攻）・教授

毎時間の授業記録を撮り、Web を通した再学習のシステムを情報科学研究センターのスタッフが3名でカメラ2台を常時回していった。

授業は、HI コースで取り入れている隔週2時限連続という授業方式で、授業実施日は18時30分から21時40分の授業で徹底したディスカッションに取り組むことを基本とし、隔週の間を今回はSNS機能を持った「サイボウズ Live」という無料ウェブサービスを活用した。

2012年度の授業テーマは、「幸福とは何か」である。大学院だからといってここですぐにアランの「幸福論」が出てくるのではなく、自分ごととしての「幸福＝しあわせ」であり、リアルな幸福感の問い直しである。そこには、正解の無い問いにどのように自分が迫っていけるのか、それをコミュニティを通して考えていくことによって、何が生成されていくのか、それを味わってほしいという願いがカリキュラムデザインの意図として底流に流れているのである。

社会人と学生と編集のProという3つの階層が、授業でどのようなコミュニティを形成していくのかということは、コミュニティ形成が単なるなかよしクラブで終わることなく、研究活動におけるもっとも重要な視座である批判的な視点という自己の対象化が学習者に生成されることが起こっていく。

そこでは、他者とのコミュニケーションが自らの文脈や背景を、他者と同化させること、つまり仲良くなることを前提としたコミュニケーションではなく、元々他人と自分は異なっていることを前提にし、その相違点と共通点を明らかにしながら、その上で新しい価値づけとして意味を生成していく。という建設的な知的生産のスタイルにつながっていることに期待している。

この原稿を書いている段階では、まだ結果はすべて明らかになっていないが、来年度の早々にはこれらの活動の成果をwebで紹介したいと考えている。